

あ
り
が
と
う
を
届
け
た
い

第10回
かながわ感動介護大賞
作品集

かながわ感動介護大賞実行委員会



はじめに

今年度で10回目の節目を迎えた「かながわ感動介護大賞」

今年も、高齢者の方やご家族、介護職員の方々から、たくさんのエピソードを寄せていただきました。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は続いており、介護職員の皆さんには、日々、一生懸命業務にあたっていただいているところです。

こうした中で、本年度、感染対策をとりながら、再び「介護フェア inかながわ」で表彰式を行うことができ、嬉しく思います。

介護の仕事は、介護を必要とする方お一人おひとりの人生に寄り添い、毎日の生活の中で、嬉しいこと、楽しいこと、悲しいこと、辛いことなどを分かち合い、その方のこれから先の人生と一緒に創っていくという、大変に意義深く、魅力のある仕事です。

誰もが年齢を重ねても病気になっても、社会のつながりの中で、安心して生きがいに満ちた人生を過ごしていくことができる地域社会であるために、介護の仕事の魅力ややりがいをもっと多くの方々に知っていただきたいと強く願っています。

この作品集は、介護現場の様々な場面を通じた仕事の醍醐味にあふれています。作品を通して、介護の仕事の素晴らしさを改めて感じていただければ大変嬉しく思います。

皆さんとともに介護の仕事が笑顔の「介護文化」として定着し、この作品集を読んだ方に介護の仕事の魅力を感じていただければ幸いです。

かながわ感動介護大賞実行委員会（構成団体）

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
一般社団法人かながわ高齢者住まい連絡協議会
公益社団法人横浜市福祉事業経営者会
川崎市老人福祉施設事業協会
公益社団法人神奈川県社会福祉士会
公益社団法人神奈川県介護福祉士会
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学
株式会社テレビ神奈川
株式会社神奈川新聞社
横浜エフエム放送株式会社
神奈川県

かながわ感動介護大賞 表彰選考会委員名簿（〇…座長）

公益社団法人神奈川県社会福祉士会…………… 雨宮 徹
公益社団法人神奈川県介護福祉士会 会長…………… コッシュ石井 美千代
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 副理事長…………… 小藪 基司
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会 …………… 石島 美紀
神奈川県立保健福祉大学 准教授…………… 〇大島 憲子
東海大学 准教授…………… 御領 奈美
田園調布学園大学 准教授…………… 増田 いづみ

作品目次

最優秀賞	「出会い」	1
優 秀 賞	「『匹如身の吾に喜雨降るサロンデイ』酔人	3
	「生まれて初めてのデイサービスにて」	5
	「素敵な誕生会」	7
	「『お味噌汁を作れた』が教えてくれた事」	9
	「ずっと一緒に桜を」	11
佳 作	「サロンデイのデイサービスに通って」	13
	「私の原点」	14
	「共に生きていく介護」	15
	「求められる支援(介護)」	16
	「より添いのリハビリで再びお箸が」	17
	「ほんもののやさしさ」	18
	「花まるだらけのカレンダー」	19
	第10回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評	20

※作品は、応募者の意向を尊重し、ほぼ表現を変更せず掲載しました。

※介護を受けたご本人・ご家族以外からの作品は、ご本人・ご家族からの承諾を得て掲載しています。



最優秀賞

「出会い」 吉備 育子様

感動介護を行った職員

大信産業株式会社

看護小規模多機能 みのもり大岡 梅澤 律子さん

ゴルフ、プール、旅行と楽しんでいた主人がコロナ禍で自粛中、突然脳梗塞で倒れ半年の入院、一年間の自宅介護中、2021年12月87歳の人生を終えました。娘と二人で二人三脚24時間365日の介護、重度高次脳機能障害は想像を超える過酷な後遺症でした。食べる事も意思表示も出来ない主人が不憫で哀れで抱き合って泣いてばかりでした。胃瘻の注入、オムツの世話、何より大変だったのは、昼夜を問わず歩き廻る為、転ばない様に、誤嚥^{えん}に注意したり、一時も休まる時間も無く無我夢中で4カ月近く過ぎ、心身共に疲れ果て途方に暮れた頃、一筋の光が見えました。それは看多機で居心地良く過ごせる様にと専用椅子、ドライブ等々、創意工夫してもらい、看多機利用を毎日でもと言われた時の驚き嬉しさは忘れられません。もう一度、頑張る勇気を頂きました。ユーモアのある主人は、冗談を言うとニヤッと笑い、私達も笑顔が戻りました。看多機にも嬉しそうに行き、生活のリズムも出来、ホッと致しました。胃瘻交換で2日間の入院中に急変、アツと言う間に旅立ちました。未だに介護中の姿が思い浮かび会いたくて涙が込上げます。後日、看多機の皆様が待っていてくれたと知り、主人は大事にされていたと思うと嬉しく気持ちが和みました。看多機にお世話になって良かったと感謝の気持ちで一杯です。優しさ、思いやりの心に大切さを学ぶ事、多々ありました。何より皆様との出会いが宝物だと思います。

※看多機…看護小規模多機能型居宅介護事業所

< 講 評 >

突然の介護に加え、意思の疎通も難しい状況の中、ご本人だけでなく、ご家族もさぞかし心細い思いでおられたことと思います。そんな中、看多機でのサービスが始まりました。ご家族の「頑張る勇気をもたらした」という言葉に、このサービスの存在意義を感じました。重度の介護状態になるほど、家での介護は負担も大きくなります。「毎日でも」という、状況に応じて柔軟にサービスを利用できる看多機の機能と、少しでも居心地よく過ごせるようにという、職員の配慮のもと、家族は安心して介護を続けられ、ご本人の笑顔も見られたのだと思います。始まったときと同じように終わりも突然でしたが、大切に介護されたという実感と大切な出会いが残りました。



優秀賞

「『匹如^{するすみ}身の吾^{われ}に喜^{きう}雨降るサロンデイ』酔人^{すいと}」

岩元 毅郎様

感動介護を行った職員

株式会社サロンデイ サロンデイ厚木

阿部 昭夫さん、和田 智さん

4年前に前立腺癌^{がん}のため全摘、一昨年には肺癌^{がん}のため片肺の半分を切除。片肺飛行のため、コロナ禍になってからは外出を控えている。

このような生活にも関わらず、昨年9月に高熱が続きコロナを疑われたが陰性。解熱剤が効かず、意識朦朧^{もうろう}となり緊急入院することとなった。高熱の原因は、切除した肺の空洞の細菌感染だった。点滴の管に繋がれ、食事はおろか寝返りすら出来ない状態が1ヶ月程続いた。退院はできたが筋力は低下、食事は殆ど^{ほとん}摂れず11kgも痩せてしまった。

退院から数日後、ケアマネが訪ねてきたが、恥ずかしながら私はその存在を知らなかった。要介護3の認定を受け、娘からデイサービスの利用を勧められたが、元々偏屈な私は抵抗があった。どうせ老人の井戸端会議の場か、家で厄介な老人を預ける所だろうと、私のプライドが許さなかった。しかし、ケアマネから自立の為だと勧められて心が動き、物は試しと行くことにした。

行ってみて驚嘆した!送迎時の心遣い、施設の環境、そして利用者一人一人に合ったきめ細かいケアの内容。完璧である。私の知識の薄弱さを思い知らされた。身内でもこうはいかないだろうと。

今は少し歩けるようになり、一人で入浴もできるようになった。デイサービスで仲間と会話ができ、身体だけでなく心の支えにもなっている。勇気をもって一歩踏み出すことの大切さを身を以って知った。デイサービスの日が待ち遠しい今日この頃である。

< 講 評 >

病気や要介護状態を経験すると多くの人が感じるのが、支援を受けるハードルの高さです。自分で道を切り開き家族を守ってきた人にとって、人生の難しい局面でプライベートな生活に多くの人がかかり、ストレスに感じることもあると思います。

コロナ禍で孤独な闘いを切り抜けてこられた岩元さんの千里眼は、デイサービスを直感で拒絶しつつも、実際にその場に身をおいて「喜雨」と表現して下さいました。岩元さんの深い洞察力と職員の日々の努力の賜と、拝察いたします。快方に向かって一步一步前進されているとのこと、これからもデイサービスとともに粋な生活を楽しんでいただけたらと思います。



優秀賞

「生まれて初めてのデイサービスにて」

大紺 正昭様

感動介護を行った事業所

株式会社サロンデイ サロンデイ上鶴間

吹く風の癒しも感じず、苦手になった体操かたぼやきながらスタッフの方々に挨拶、導かれて席へ、腰を痛め足に影響があり何とかしたいと云う願いがこの施設が適しているであろうと判断したのが始まりでした。

室内に一步入ればピリッと緊張した空気に触れ、身が引き締まる思いがします。ここは、スタッフの方々と触れ合う戦場かと思いました。

挫折し、情けない自分の姿に哀れを感じとっての幕明けでした。

スタッフの方々の元気な優しい笑顔が眩しく、別世界への入口でもありました。

夢に生きるスタッフの方々が、私に何を与えようとしているのか、不思議な空間でした。

【こんな事ぐらい・・・】と思う事が出来ない事にハッとし、

【こんなはずでは・・・】と今更きづく儂^{はかな}さが沸きあがります。

親切に、丁寧に指導して下さるスタッフの方々の努力に【頑張らねば・・・】と感謝の気持が溢れます。

誠実に、理論的な指導方法で効果を見出し、努力目標として険しい回復への階段を昇ります。

忙しく動き回るスタッフの方々、機械の操作、消毒と目まぐるしく行動される姿は畏敬です。人を想い、人に尽くす姿は救いの手を待つ私達には、掛け替えのない天使の降臨です。立てぬ者には手を差し伸べ、動けぬ者には痛みを擦られます。辛さや痛みを感じた体も時間の経過と共に軽減していき、軽くなった感じを体験します。

手の温もりや、励ましの声が気弱になった私の身に響き訓練の日々

を支えます。厳しい表情と優しい仕草に「よくしたい」と云う信念と
思いやりの情熱を頂きました。いつ、どんな時でも事故の無いよう
配慮されている姿勢に敬意を表します。落ちこぼれの駒を見捨てる
事無く、人生の支えとして道標を照らす灯りであります。

「入ってよかった」そう思える瞬間です。半年を経過し志半ばながら
「ありがとう」の言葉を添えて挑戦し続けてまいります。

人生の豊かさ、挑戦する勇氣、諦めない粘り、目標を目指して進んで
行く継続の必要さが私達に伝わります。同じ悩みを持った仲間がいて、
慰められ、励まされてリハビリを続けることが出来ます。我慢と努力を
重ねて、回復を願い、かつての舞踏会での輝いたワルツの舞を夢みて
います。

< 講 評 >

誰のもとにも老いはやってきます。今までできていたことができなく
なり、「こんなはずでは」と誰もが思います。しかし、それでも人生は
続いています。

そんな人生にも新しい扉があり、それを開いていく力を人は持って
います。失ったように思われたものごとは、新しい生き方を見つける
きっかけなのかもしれません。

喪失と再生を繰り返す人生において、必
要な時に人々の支えとなり、機能訓練という
施設の機能を通じて、利用者を勇気づける
施設の姿勢は、県内でも3000ヶ所を超え
る施設が整備され、高齢者がデイサービス
に通うことが当たり前の世の中であって、
「介護とはなにか?」という問いに対し、新し
い答えを示してくださっていると感じました。



優秀賞

「素敵な誕生日会」 林 陽子様

感動介護を行った職員

プラウドライフ株式会社 はなことば小田原

中ノ森 由季子さん

主人が施設にお世話になり3ヶ月になりました。介護施設は遠い存在でしたが以前脳ザショウした事で右足がだんだん動かなくなって来てしまい施設にお世話になる事にしました。施設の多くの方々に温かい声掛けで毎日元気で過しております。主人は声がかすれて言葉も聞き取りにくくなっていて介護マネジャーさんが歌で声を出すのが一番、カラオケしましょうとおっしゃられカラオケルームがある事にびっくりしました。主人の88才の誕生日をカラオケルームでしましょうと云って下さり当日部屋に花がかざられてお部屋の近くの方々がプレゼントして下さり涙しました。換気をして下さり娘と孫娘とひ孫ちゃんと誕生日会を行いました。ひ孫が“じいじお誕生日おめでとうこれからも元気でいて下さい”。その言葉は予想もしてなかったので主人の目から涙、皆も涙、主人はひ孫の頭をなでていました。歌も知っていそうな曲を入れ4曲歌い皆で合唱をして終わりました。

介護マネジャーさんが近くの方とお話し出来る場をもうけて下さり今は声もしっかり出て会話もしっかり出来る様になりました。一つ一つ克服して行く姿を見て只々感謝の気持ちでいっぱいです。スタッフの方々もニコニコ温かく言葉かけ下さりほんとうに心温かな素敵なホームです。これからもよろしく申し上げますと願うことばかりです。スタッフの皆様の御健康を心よりお祈り申し上げます。

< 講評 >

林さんは、脳挫傷により、心も体も脳も、これまでとは随分と違う感覚を体験なさったと思います。奥様のご心配なさりながらも、あたたかく寄り添うご様子が目に浮かびます。そして、そんなお二人を支えていらっしゃる「はなことば小田原」のみなさん。米寿のお祝いが、林さんにとってかけがえのない時間であったことは、ご本人の涙を通して伝わります。素敵です!でも、もっと素敵なのは、その心あたまの裏にある、中ノ森さんをはじめとする介護福祉専門職のみなさんの信念ある実践です。林さんの可能性を見極め、信じ、より良く暮らすことができるよう目標を立て、改善に向け一緒に歩んでこられました。今後とも、あたたかさ実践力で、利用者さんの尊厳を支え続けてください!



優秀賞

『お味噌汁を作れた』が教えてくれた事

株式会社リカバリータイムズ

リカバリータイムズモア 石井 宏和様

自立支援は私達の力だけではない、そんな学びを与えてくれた出来事を。

デイサービスに通っていたAさん。脳梗塞により右半身麻痺が残り、自宅での料理が行えませんでした。そんな時、ヒントをくれたのは同じ利用日のBさんでした。Bさんも脳梗塞により右半身麻痺がありましたが、自宅では料理も実践しており、来所時にはAさんと料理について話していました。

その光景を見て、スタッフと相談し「まずは野菜を切る練習を企画してみよう。でも先生は私達ではなくBさんだね。」と料理のきっかけ作りを試みました。最近では包丁を握る機会のなかったAさんですが、Bさんにもお手本を見せてもらいながら、利き腕でない左手で無事に野菜を切ることができました。

後日、送迎車の助手席に座ったAさんから「そういえば昨日、味噌汁を作ったのよ。お父さんが宅配弁当の味噌汁じゃ美味しくないって言うから。」と何気なく話してくれました。さらに聞くと「私が野菜を切ったのよ。まあ、ザクザクとだけだね。」と少し照れたような表情でAさんは教えてくれました。

できなくなったことができる。これには一緒に練習してくれたBさんのような仲間、一緒に生活する旦那様のような身近な存在、そしてAさんのような前を向き頑張る姿なしには実現できません。

私達の力だけではできない事も、少しのきっかけでできる事がある。そんな学びとAさんの少し照れた表情は今も忘れません。

< 講 評 >

湯気の立ちあがる温かいお味噌汁の先に、笑顔のほのぼのとした風景が浮かびます。右片麻痺で利き手が不自由になって、自宅でのお料理を作れなくなっていたAさん。しかし、Aさんにとって、一緒に包丁を持ち練習をしてくれたBさん、練習の機会を作ってくれた介護職員、その出会いは偶然であり奇跡でもあります。介護は、人と人とのつながりによって成り立つことを伝えてくれています。Aさんのお味噌汁のお話をしている時の少し照れた表情と前を向き頑張る姿は、関わっている介護職員へのエールになったと思います。Aさん、これからも美味しいお味噌汁を作ってください。



優秀賞

「ずっと一緒に桜を」

社会福祉法人 徳心会 特別養護老人ホーム 菅の里
中島 早苗様、手塚 幸代様

「K子、今年も一緒に桜を見れたね。来年も再来年もずっと一緒に見ようね。」、K子様の顔を覗き込み手を取る夫のM様の声はとても優しい。柔らかな光に包まれた令和4年春の花見での御夫婦の姿を皆が優しく見守った。

令和3年7月、K子様は救急搬送された。胆嚢炎^{のう}で救急搬送先の病院医より「点滴を抜いたら夏は越せないかもしれない。菅の里で看取りで受け入れを。」と話しがあった。病院では言語聴覚士が介入しても昼のみの食事提供で1～3割の摂食。しかし菅の里でカンファレンスを開催すると、看取りの判断に至るのは早いのではないかと、諦めない介護をするべきではないかと、といった意見が出た。ただ、施設医や御家族や後見人様の意見も踏まえ、看取りで受け入れる事となった。

8月、退院。呼びかけに反応は殆どなく表情は虚ろで、ひと口ひと口を丁寧に時間と回数をかけて介助するが、食べられるのは2～3割だった。

9月、ベッドを窓際に運んでカーテン越しの日差しや風を感じて頂き、毎日外の風景を話し掛けた。夫のM様は時々菅の里のショートステイを利用され、一緒に話し掛けた。食事は4割になった。

10月、M様が本入所された。カンファレンスでは、お互いがお互いを必要として良い影響を受け合っているため、M様がK子様に出来る事をまだまだ増やしたいと話し合った。かつてK子様が作られた花の刺しゅうカバーを後見人様に持参して頂き、ベッド横に飾った。「可愛らしくて綺麗ですね。」と言うと、薄っすらと開眼され「はい。」と答えられた。

11月、食事は5割を超してカンファレンスで話し合い、看取りは解除になった。

現在のご夫婦の一日は、朝にM様が温タオルでK子様のお顔を拭く事から始まる。お顔に乳液を付けリップクリームを塗り、髪をとかす。「K子、綺麗だよ。今日も元気だね。」とM様が声を掛けると、目を開けてM様の姿を追われる。部屋でCDを掛けるとM様が歌われ、K様子が聴かれています。この日常は菅の里の各種職員だけでなく、御家族様や後見人様や居宅ケアマネ様等、沢山の方々との連携や御協力があって実現出来た事。夏は越せないと言われて2回目の夏を御夫婦で元気に過ごされている。

< 講評 >

「今年も一緒に桜を見れたね」。きっと毎年一緒に桜を見ていたのでしょう。

一度は看取りとされましたが、施設に移り少しずつ回復され、桜を見ている温かな風景が目につかびます。

夫のMさんも看取りと判断され、苦しい気持ちになられたと思います。K子さんを愛情と優しさで励まされ、施設の職員や後見人と1つのチームとしてK子さんの生きる気持ちを励まされたと思います。また、K子さんも「食べる」という命の源になる行為を努力されたと思います。

夫のMさんも一緒に施設に入所され、温かな日常を過ごされていると感じました。

看取りでの受け入れとなりましたが、この作品では表現しきれないほどの施設職員の方の「諦めない介護」、そしてK子さんへの愛情を感じる作品でした。



感動介護を行った事業所

株式会社サロンドイ サロンドイ東海大駅前

この夏、今までの私には考えられない気力、体力が充実した経験をしました。

気力、やる気のひとつとして、地元平塚にNHKのど自慢の中継が行われることになり出場者の募集があった。以前であれば乗り気にもならなかったが、今回は思い切って応募しました。

幸いにも予選会の出場者に選ばれ、それからというもの2週間はワクワク、こんな楽しい気持ちになったのは何年ぶりでしょう。結果は本番には出られませんでした、家族一同「希望は残してくれたんじゃないの」と励ましてくれました。

いまひとつは、全国高等学校野球神奈川県大会で孫が在学している高校のチームが、平塚の球場で試合をすることになり、思い切って応援に出掛けました。暑く、熱中症も心配されるなかハツラツと健闘する若者の姿に元気をもらいました。思えば体が弱く、外に出掛ける体力すらなかったが81才の今、充実した生活を送っています。

この根源は、通い始めた“サロンドイ”でのご指導、トレーニングによる成果だと思ひ、感謝しています。

朝一番で迎えに来られる運転手さんとの「おはようございます!」の挨拶から半日の日課が始まります。

通い始めた時は、色々と心配する事が多かったけれどサロンの雰囲気、スタッフの方々の対応、指導により“やれるぞ!!”という気持ちに変わっていきました。

特に、介護スタッフのいたれり尽くせり、人の気持ちを温かくする気遣い、その人に応じた指導が良く、楽しみに休まず通っています。

私は、頭のケガがあり脳トレが苦手で、スタッフのやり方をマネてやると少し出来る様になるが、自分一人だとなかなか上手く出来ない。そんな人にもその人に寄り添った指導を親切にやってくれます。又、機械を使ったトレーニング効果も大きく、膝が悪く水が溜まって整形外科に頻繁に通院していたが、“サロンドイ”に通って以来、通院していないという事実等々、まだまだ改善された成果は沢山あります。

最後にサロンドイのスタッフから教えて頂いた言葉で

“カムサハムニダ”(ありがとう 感謝)

まさにこの気持ちで一杯です。これからの人生もっと楽しく、生きなきゃとスタッフの方々にハッパを掛けられながらトレーニングを重ねて行きたいと思っています。

佳作

今年は新たなサービスへの挑戦の年となり、訪問入浴一筋だった私は、ふと自分の介護人生の原点を思い返しました。

18年前、介護の何たるかもわからぬまま訪問入浴のオペレータとしてスタート。先輩についてお客様宅を訪問した研修4日目。新規でターミナルのH様に、その日は最初から一人でサービスさせていただきました。当然技術は不足、すべてがスムーズにいくわけもなく…。取りあえず入浴は無事終了し、髪を乾かす等していると「島村君ちょっといい?」とH様から声をかけられ、ご自身のことを色々とお話してくれました。そして帰り際に「これからも頑張るよ、気持ちよかったよ。」と言ってくれたのです。ベテランの先輩だったら、もっといいサービスができたはずですが、未熟な自分にかけてくれた「気持ち良かったよ。」とのH様の言葉をきっかけに、私は本気でお客様に向き合おうと決意しました。

その2日後、いつも通り訪問に向かう途中、近くの斉場を通りかかると、看板にH様の名前が。それを見た瞬間私は運転を続けることができなくなり、先輩に頼んで車を止め、その場で声をあげて泣いてしまいました。そして、斉場のH様に向かって『もっといいサービスをお客様にします。』と誓いました。

たった一度の出会い、H様の温かな励ましの言葉が、今の自分を育ててくれたと思っています。あれから18年、今でも常に『もっといいサービスを』との誓いを胸に、今日もお客様のもとに向かっています。

佳作

新卒で入社し、今年で5年目を迎えます。在宅サービスである訪問入浴、訪問介護を経験する中で、死と向き合っの介護について考えさせられることが多々あります。

最近サービスを開始したY様もその一人です。併設の訪問入浴がコロナの影響で行かれなくなり、急遽訪問介護での入浴介助となりました。がんの末期で手足の痛みが強く、入浴の際は毎回細心の注意を払って介助しています。

ある日、お風呂上りで気分もよかったのか、ご夫婦そろって「春になると、近所の桜がとてもきれいだから、来年は杉山さんと見に行きたい。」と言われました。その時のお二人のとても前向きな言葉に、私はハッとさせられました。

ターミナルだから、その時がきたら全力でサポートしようとの思いは強くあったものの、生きていくという前向きな心を汲み取れていなかったのではないか。介護は、ただケアする人、される人という関係だけではなく、同じ目標や希望に向かって共に生きていくということなのではないかと。

Y様自身、ご自分の状況はご存知ですが、来年みんなで花見をとの希望が生きる活力となり、自力で歩行できるよう一生懸命頑張っています。私はY様のその姿に深い感銘を受け、精一杯サポートしていこうと改めて思いました。

奇しくもY様のお母様が14年前に弊社の訪問入浴を使っており、「その時は本当にありがとう」と今でもお礼を言ってくれます。そんな先代が築き上げた自社への信頼、サービスの精神を受け継ぎ、私もその歴史の1ページを綴っていきたいと思います。

佳作

98歳K様女性。夜中ベッドから立ち上がり足を滑らせ転倒され骨折も考え救急要請。レントゲンの結果「大腿骨骨折だいたいこつだね。年寄りには多い部分。入院で手術ね」と医者。コロナで面会は禁止、認知症状の進行も心配され家族様は、手術を望まず3日間の入院で施設へ戻られました。3週間はベッド上安静の指示の中、食事水分も進まない日が続きました。居室でもフロアの雰囲気が届くようドアは開放しておく。こまめに誰もが声をかけに行く。何なら食べてくれるかな? そんな毎日が3週間。主治医の許可のもと車椅子での生活に切り替える事にしました。上半身と下半身を2人で介助します。ゆっくりスムーズに息を合わせないと危険な介助です。毎日、毎日、少しずつ。不思議と食事も食べられるようになり表情も変化が見られました。よし、次はトイレに行ってみよう。ベッド上では、なかなか出ない物(排泄)です。2人介助で慎重に安全に。次は、お風呂に入ろう。次々と今まで通りの生活に近づきます。骨折から4ヶ月。歩いてみよう。手引き歩行で1メートル。2メートル。3メートル。少しずつ。

2022年2月K様は、99歳白寿のお誕生日を歩いて迎える事が出来ました。元の生活に戻れたのはK様の意欲。

もう一つは、K様の気持、御家族様の想いに寄り添い続けた職員の支援。まぎれもない求められる支援(介護)だと思います。これからもプロ達は、入居者様、家族様の生活の質を向上していきます。

「より添いのリハビリで再びお箸が」

大石 勝己様

佳作

感動介護を行った事業所

株式会社ふるさと デイサービスふるさと東戸塚

認知症と脳梗塞の半身不随の妻(72)を自宅で介護中。夫(79)。

デイサービス利用しての老々介護の暮らし。妻の左手は麻痺で動かない。ある日の夕食時、右手も動かなくなってしまった。不安と心配で胸が一杯に。その時は、何とか介助して食べることができた。「右手が動かないのは、軽度の脳梗塞が考えられます。治療方針は経過観察になります」とお医者様。食事は全介助に。デイサービスの連絡帳に「美香子さん一番頑張っておられるので私共も右手のリハビリに努めてまいります」との記入が。私は妻に毎日「カミカミ、ゴクン」だよ。お腹をこわさない様祈りながら全介助に励んだ。リハビリの事など気にも止まりません。やがてまがりなりにも、食事を調理して、全介助で食べてもらう事が続けていけそうに思えてきた。何の変わりもなく二週間が過ぎた日の連絡帳を開けて、急に目頭があつくなり、文字がにじんで読めない。そこには「今日、美香子さん、右手でお箸を持たれ自力で食事を完食して下さいました。(お粥は少しお手代しました)さすが頑張り屋の美香子さん!!お箸を上手に使い口に運ばれ召し上がっていました」との文字が。

大変なことがおきたよと思った。同時にうれしさと喜び、感謝の気持等が同時に胸いっぱい広がってきた。こんな事がおこるとは全く思っていなかった。小西さんやスタッフの方の顔が次々と浮んでくる。よくリハビリを続けて下さいました。こんなことがあるのですね。妻が、再びお箸を使える様になり本当に有難うございました。

「ほんもののやさしさ」 安藤 フジ様

佳作

感動介護を行った事業所

株式会社ZENウェルネス アシステッドリビング湘南佐島

人間何時^{いつ}想定外の事が起きるかわからないから気を付けなさいよと、息子に毎日デンワしている私が、今年2月24日、夕食後だったと思うのですが気がついた時は病院での3日目でした。退院するまで昼夜をとわず抗生物質と栄養剤の点滴それでやっと3月4日に退院して来ましたら玄関にホームの方達がたくさん出迎えて下った時は嬉しくて泣いていました。私は退院してから一人では入浴が出来なくなっており皆さんに大変お世話になっております。中村江里菜さんは帰って来てありがとうと言いながら、今まで自分では洗えなかった足のうらとか指の間などやさしく洗ってくださいます。そのやさしさが体に心に感じるのです。この中村さん齊木さん伊達さんは小さい子供さん2人づつ保育園にあづけて働いておられるのに私達にこんなに精いっぱい心と力を使ってお世話下さる事を考えますと本物のやさしさがなくては、毎日毎日つづかないと思うのです。冬でも半そで半ズボンで汗をかきながら、お世話下さるみなさんに頭が下ります。仕事が終ると保育園に子供さんを迎えに行き、今度はつかれた体で家事と子供さんの世話と又大変な仕事があるのにほんとうにありがとうございます。

今回私がお世話になり思うのですが、どこのホームでも入居さん方は年を重ねてどこか悪い方が多いと思うのですが、そうしますと何時^{いつ}かは入浴の世話になるのですから私のホームのように若い人達が安心して働けるようなホームでありたいと思っております。

今私は94年間皆さんにやさしくして来たのだろうか……自分を守るために生きて来たような、なんとも言えない気持ちが胸の中を走りました。

岸さん中村さん齊木さん伊達さん小林さんやさしくして頂き、ありがとうございます。これからもよろしく願い致します。

「花まるだらけのカレンダー」 安部 肇子様

佳作

感動介護を行った事業所

社会福祉法人中川徳生会 特別養護老人ホームビオラ市ケ尾

新型コロナが蔓延^{まん}し、施設の母と会うことができなくなった。しかしメモは届いた。大きな文字の、「ちり紙」などの注文だった。

母は昭和一桁生まれで、戦争を経験していた。捨てられない人で、広告の裏紙は必ずメモ用紙になり、新聞紙はお弁当を包んだ後は掃除に使われた。そのような母がくれるメモはカレンダーの裏紙であった。カレンダーにはマジックで花まるが描かれている。なんのことが問うこともなく時が過ぎた。

一年ほど経ち、どうしても母に尋ねたいことができた。言葉がよく聞き取れなくなっているなので、ガラス越しの面談をお願いした。ついでに「歩いてる?」と問いかけた。

母は水中毒で意識が混濁したことがある。その折、医者からもう一人で歩くことはあきらめるように指示を受けていた。しかし、歩く機能は残したい。毎日施設に行き、歩行に付きそうのが日課であった。そのような折に緊急事態宣言である。じりじりした思いを抱えていた。

母は身振り手振りを交えて言った。「富塚さんが来て、歩かせてくれるの。そして歩いた日は、花まるをつけてくれるの、カレンダーに。」

合点がいった。あの花まるは、母が歩かせていただいた証であったのだ。記憶をたどるとすごい数の花まるであった。お忙しい業務の最中、コロナ対策で大変な中、歩行をさせて母の機能を維持してくださっていたのだ。会っても何もおっしゃらず。ありがとう!富塚さん。

第10回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評

新型コロナウイルス感染症拡大から約3年の歳月が流れるなか、今年度は、ご本人・ご家族の皆さま、介護現場の職員の皆さまから計73作品のご応募をいただきました。多くの方々が、困難な状況にもかかわらず、感染防止に細心の注意を払いつつ「心温まる人とひとのつながり」を大切に、介護場面で多くの工夫が伝わるエピソードがございました。

ご本人の方からは、デイサービス(通所介護)に対する偏見が、利用するうちに変化し、思っていたことと違って心の変化や行動変容、職員の方の工夫でリハビリが目的をもってできたこと、利用者同士が教え合うなどのエピソード等が多数寄せられました。

また、ご家族の方からは、家族への介護疲れから小規模多機能サービス等を利用する中で職員の方々のケアに感謝するエピソード等がございました。

職員の方からは、看取り期の利用者の方への想い、介護福祉は小さな日常を丁寧に支え、生きるということを支えていくという現場の想いが伝わりました。また、介護支援専門員の方が仲立ちし手紙で夫婦の関係をつないでいることやひ孫さんも含めた家族へのアプローチ、50歳代に入って初めて介護の仕事をした方の感動等のエピソードもございました。

大変な社会情勢のなかでも、多くの方々が本大賞に関心をお寄せいただきましたことに心より感謝申し上げます。また、広報等でご尽力いただきました皆さま、協賛いただきました企業の皆さま、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

来年度も多くの皆さまのご応募をお待ちしております。

かながわ感動介護大賞協賛団体



パチンコ・パチスロの
神・遊・協
KANA-YUKYO
神・福・協
KANA-FUKUKYO

神奈川県遊技場協同組合
・神奈川福祉事業協会



公益社団法人
横浜市福祉事業経営者会

株式会社サロンデイ
川崎市老人福祉施設事業協会
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
社会福祉法人横浜長寿会
株式会社えひめ飲料東京工場
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会

社会福祉法人富士美
社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会
社会福祉法人敬心会

社会福祉法人竹生会
有限会社みどりケアサービス 屋上テラスみどりや
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
株式会社いわしや西方医科器械
社会福祉法人二津屋福祉会 ロゼホームつきみ野
社会福祉法人カメラア会 カメラア藤沢SST
社会福祉法人公正会 特別養護老人ホーム希望苑

随時受付中!

かながわ感動介護大賞 感動介護エピソード募集

今度はあなたの「感動」介護のエピソードを
伝えてみませんか!

職員の方や感動的な場面を
直接見聞きした方の「感動」介護のエピソードも
募集しています。

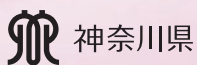
ご応募お待ちしております。

※詳しくは、県ホームページ

「かながわ感動介護大賞エピソード募集」をご覧ください。

※インターネットからも応募できます。





かながわ感動介護大賞実行委員会

福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課

〒231-8588横浜市中区日本大通1 TEL.045-210-4835(直通)



ともに生きる社会

かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society



instagram ID : かながわ憲章【公式】

かながわ憲章

検索



受賞作品の
ドキュメンタリー動画を
Webで公開しています



神奈川県
「認知症の人と
家族を支えるマーク」

